上宮

上宮（上の社）は、宇佐神宮でのほとんどの儀式や祈りが行われる場所です。ここでは、応神天皇（日本の伝説的な第 15 代天皇）の神格化された姿である八幡神と、応神天皇の母である神功皇后、そして比売大神と呼ばれる三女神という、主要な三柱の御祭神を祀っています。八幡神は国と皇室の守護神として崇拝され、神功皇后は安産のご神徳があり、比売大神は航海の安全の祈りに応じると信じられています。

一般的な神社での祈り方は、二礼、二拍手し、手を合わせながら静かに祈り、最後の一礼をします。しかし、宇佐神宮での参拝の作法は少し異なり、拍手を 2 回ではなく 4 回行います。また、上宮と下宮（下の社）では、礼拝者は中央の御殿の前だけでなく、神々を祀る 3 つの御殿それぞれの前で祈ることが推奨されています。

上宮の 3 つの本殿は宇佐神宮発祥の八幡造建築の様式で建てられています。各御殿は、通路で繋がった 2 つの別々の建物のように見えますが、2 つの切妻屋根を持つ 1 つの建物です。内部は、カーテン付きの寝台を備えた内側の広間と、御椅子がある外側の広間に分かれています。神々は、日中は外側の広間にいらして祈りを受け取り、夜になると内側の広間に下がりて休息していると考えられています。3 つの御殿の中は、鳳凰の絵によって豪華に飾られています。全国には約 40,000 の八幡神社があると言われていますが、伝統的な木造の八幡造りの社殿の例は 10 に満たない数しか残されていません。

上宮の中に立つ 3 つのより小さい神社は、3 つの御殿の各御殿を守護する神社です。春日神社は八幡神の御殿を守護しており、神功皇后をお助けになった神様を祀っています。北辰神社は比売大神の御殿の守護社で、宇佐神宮が建つこの土地の神々を祀っています。注目すべき点は、北辰神社は宇佐神宮の八幡造のもう一つの例であることです。住吉神社は神功皇后の御殿の守護社で、神功皇后を祝福した 3 柱の神々を祀っています。これらの神社に加えて、上宮の壁沿いに植えられた大きな一本の楠は、八幡神の神聖な子女を祀る場所としての役割を果たしています。

八幡神の最初の御殿は 725 年に小椋山に建てられ、現在見られる上宮の御殿は 1859 年から 1861 年に再建されました。2012 年から 2015 年にかけて大規模な修繕が行われた後、朱色の柱、白い壁、檜皮葺き屋根の茅葺きが、空や周囲の木々を背景に、特に美しく映えています。上宮の 3 つの御殿は国宝に指定されており、北辰神社、南中楼門、西大門は大分県指定有形文化財です。